

## 地域資源利用学特論演習（2単位）

担当者氏名 中村貴彦・藤川智紀

### ◆学習・教育目標（到達目標を記載）

新しい農業技術に対応できる生産性と保全性の高い圃場整備手法、および貴重な地域資源である用水の合理的・節水的な畑地灌漑手法について学び、議論することにより、地域資源利用に関する実験や研究における基礎的な素養を身につけることを到達目標とする。なお、この科目は必要に応じてバイリンガル（日本語と英語）で実施する。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

地域資源利用	農地基盤整備	畑地灌漑計画	節水灌漑
水環境整備	ビオトープ整備	バイオマス	農村振興

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	新しい稲作技術と水田の圃場整備（第1～2週）	わが国の圃場整備の歴史および乾田直播栽培のための基盤整備のあり方	◎わが国の食料自給率および農地利用を中心とした農業・農村の現状について事前に学習しておく。 ◎配付資料を熟読しておく。
2	畑地農業の実態と畑地灌漑計画（第3～5週）	わが国の畑地の特徴および畑地灌漑の特徴と役割、畑地灌漑事業紹介	
3	水資源利用（第6～7週）	土壌中の水資源の有効利用	
4	未利用バイオマス利用（第8～9週）	未利用バイオマスの利用の現状と問題点についての演習	
5	食料自給力と地域資源（第10週）	食料自給力を高めるために必要な地域資源に関する演習	
6	農地・農村の物質循環と環境負荷の削減技術（第11～15週）	農地と農村における肥料要素および炭素・水循環の理解と環境影響評価手法の修得	

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、資料を配付する

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

農地環境工学／山路永治・塩沢昌（編）／文永堂（2008年）

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

レポート70%、授業でのディスカッション参加状況30%で評価する

### ◆オフィスアワー

中村：月曜日 16:30～18:00、金曜日 16:30～18:00、藤川：火曜日 16:20～17:50

### ◆その他受講上の注意事項

関数電卓、英和辞書、配付された資料等を毎回の授業に持参すること。授業内容に関して質問がある場合は、該当する教員へメールで連絡すること（中村：ntaka@nodai.ac.jp、藤川：t3fujika@nodai.ac.jp）。